室蘭工業大学国際交流センター

Center for International Relations
Muroran Institute of Technology

2020年度

活　動　報　告　書

Annual Report, 2020

目　　　　　次

1. 報告書の発刊にあたって ・・・ 1
国際交流センター長（理事・副学長）　船水　尚行
2. 国際交流ポリシー ・・・ 2

3. 国際交流センターの業務 ・・・ 3

4. 国際交流センターの組織 ・・・ 4

5. 学内及び学外の会議等 ・・ 6

6. 国際学術交流 ・・・ 10

7. 外国人留学生 ・・・ 15

8. 国際交流センター教員が担当した講義 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24

9. 室蘭工業大学国際セミナー ・・・ 29

10. 留学生を対象とした行事及び研修等 ・・・ 30

11. 学術交流協定校・機関との交流 ・・・ 34

12. 学生の海外への派遣 ・・ 36

13. 外国人短期研修生・外国人インターンシップ研修生・外国人研究員受入れ ・・・・・・・・・・ 39

14. 国際交流クラブ ・・ 40

15. 広報活動 ・・・ 41

16. 教員の研究活動 ・・ 43

17. 国際交流センターに関する新聞記事 ・・・ 46

18. おわりに ・・・ 47
国際交流センター准教授　　小野　真嗣

1. 報告書の発刊にあたって

国際交流センター長（理事・副学長）　船水　尚行

2020 年度は新型コロナウイルス感染症（COVID-19)の世界的な流行の中にありました。そして、これまで極めて普通に行われてきた海外との往来が制限されることとなりました。このため、留学生諸君の入国にあたっての検疫への対応など、ある意味では国際交流事業における危機管理について改めて検討する機会ともなりました。また、従来実施してきた人の行き来を前提とした国際交流の形では何も実施できないこととなり、新しい時代の新しい形の交流の形を考え、試してみる良い機会となりました。これらの対応について少し紹介することをお許しいただき、本年度の国際交流センター報告書の前書きとさせていただきたいと思います。

2020 年度はリモートで講義が始まりました。学生諸君は大学に来ることなく、特に新入生諸君にとっては新しい友人を作る機会をもつことができない状況でした。このことは、室蘭で生活をしている留学生諸君にはより大きな問題でした。国際交流センター教員はリモートで留学生諸君が集える空間を用意し、留学生諸君のネットワーキング、互いの情報交換の機会を作りました。

2020 年の半ばより、外国人の入国が可能となり、入国できなかった新入生が室蘭に来ることができるようになりました。しかし、入国後一定期間の健康管理の厳格化（2 週間の間の健康状態の報告と受入れ側の責任で健康管理を実施する等）に伴い、入国した留学生は成田空港周辺のホテルに 2 週間滞在し、本学の管理のもと、健康管理を行う必要が生じました。国際交流センター教職員の皆さんはこのことへ真摯に対応し、受入れ体制づくりや大学から留学生への金銭的な支援システムの構築など、多くの仕事をしました。

これまで、本学学生は海外留学等の機会を多く持っていました。COVID-19 の影響を受けなかった 2018 年度には 61 名の学生が長期・短期の留学経験を持つことができました。しかし、2020 年度はまったく違う形の交流の形を作る必要がありました。このような活動の中から、Webinar による交流の集まりの実施や、オーストラリアの大学との間で実施した日本語のリモート講義に本学学生が TA として参加するなど、新しい試みを行うべく国際交流センター教職員の努力が続きました。

本学は、2020 年度末時点で 22 ヵ国・地域 48 大学・4 研究機関と学術交流協定を締結しています。そして、2020 年度にリモートなどでの交流実績があった協定校・機関は 27 校・機関に上ります。これからは、新しい形での交流を進めていく必要があると認識しています。ニューノーマル時代における新しい国際交流のモデルを作っていく努力が必要と考えています。この 2020 年度活動報告が、次への展開のための基礎資料の一つとなることを期待しております。皆さんからの質問や意見をお寄せいただければ幸いです。

2021 年 3 月 30 日

2. 国際交流ポリシー

室蘭工業大学国際交流ポリシー

平成24年3月16日制定

（前文）

大学における研究活動のグローバル化はもとより、高等教育の国際市場化、大学卒業者雇用の国際化が進む情勢の中で、室蘭工業大学の国際交流の基本的な考え方を示し、教職員の活動、施策立案の指針とするために、本国際交流ポリシーを制定する。

1. 基本姿勢　室蘭工業大学は「幅広い教養と深い専門知識とともに国際社会で通用するコミュニケーション能力、実践力を持つ人材を育成する」との目標を実現し、本学の基本理念に基づいて国立大学として期待される国際的機能を果たすために、教育および研究における国際交流を推進する。

2. 教　育　国際活動に必要なコミュニケーション能力とは、語学力のみでなく、積極性、行動力、自国および他国の文化に対する理解等を含む幅広い実践力であり、留学生を含む本学学生の全てがこのような能力を持つよう、教育上の努力をする。教職員もまた高いコミュニケーション能力を涵養し、国際的に貢献する。

3. 研　究　教員は研究成果を世界に発信するとともに、海外機関との交流を推進して、研究の一層の活性化に努める。これはまた、学生の国際活動能力、研究能力向上のための教育活動でもあることを認識して研究を推進する。

4. 留学生受入　各種の留学生を積極的に招致する。学部留学生、大学院留学生、その他の短期留学生の適切な配分に留意し、本学の教育研究に資する優秀な学生の招致に努める。またそのための受入れ体制、教育体制の整備、更新を推進する。

5. 地域貢献　地域の国際交流に大学として貢献するとともに、地域の国際交流力を本学の国際活動、国際教育の推進に積極的に活用する。

6. 運　営　上の国際交流推進のため、教育プログラム、施設および学習環境、広報および海外ネットワーク、事務体制およびリスク管理体制、ならびに、これらに必要な予算措置について、長期的な展望をもってその整備を進める。

（付記）

国際交流とは、本学教職員学生による教育、研究上の、海外機関および外国人との交流活動全般をさす。研究成果の国際的発信および研究教育上の交流、各種留学生の受入れと教育、本学学生の国際性教育に関わる外国機関、外国人との交流、事務職員の国際活動を含む。

3. 国際交流センターの業務

国際交流センターの業務は、次のとおりである。

(1) 国際交流事業に関すること。

- 外国の大学等との交流協定締結、更新等の支援事務
- 交流協定校等との交流事業及び行事の支援
- 本学教職員の国際活動の支援
- 本学学生の国際性教育の支援
- 本学の国際交流推進に関わる企画、立案及びその支援

(2) 外国人留学生に関すること。

- 留学生(正規生、研究生、聴講学生、短期研修生、インターンシップ研修生を含む)の受入れ支援及び受入れの促進
- 留学生に対する日本語教育その他の教育と、共通教育及び専門教育の修学支援
- 留学生のための宿舎など生活支援に関わる業務及び相談への対応
- 留学生のための各種奨学金の広報、応募、申請、配分支援などに関わる業務
- 卒業・修了者も含めた留学生との交流促進

(3) 外国人研究員に関すること。

- 外国からの研究員及び教職員の受入れ支援

(4) 学生の海外派遣に関すること。

- 本学学生の海外留学、短期研修、国際会議参加などの支援

(5) その他国際交流及び留学生に関すること。

- 国際交流に係わる他大学、地域自治体及び諸機関との連携活動

4. 国際交流センターの組織

4.1 国際交流センターの構成員

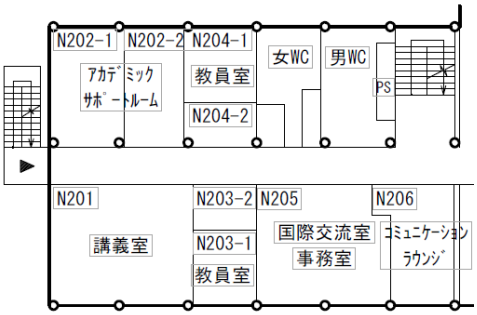
2020 年 5 月 1 日現在の当センターの構成員は、センター長 1 名、専任教員 3 名、事務職員 5 名及び事務補佐員 1 名の計 10 名であった。

国際交流センター長	船　水　尚　行	理事（研究・連携担当）・副学長
専任教授	山　路　奈保子	
専任准教授	小　野　真　嗣	
専任特任助教	白　　尚　燁	
入試戦略課国際交流室		
国際交流室長（国際企画係長兼務）	伊　藤　光　春	
留学生係長	武　川　　梢	
国際企画係主任	田　嶋　　学	
留学生係員	髙　橋　秀　徳	
再雇用職員	西　畑　寿　幸	
事務補佐員	野　田　葉津希	

4.2 センターの活動拠点

国際交流センターの活動拠点は、以下の図及び写真に示す事務室、コミュニケーションラウンジ、アカデミックサポートルーム並びに専任教員の教員室である。

事務室



N 棟 2 階フロアマップ

コミュニケーションラウンジ

4.3 国際交流委員会

2010年度から、従来の兼任教員に代わって「国際交流委員会」が発足した。その任務は、次のとおりである。また、議題の審議のみでなく、本学の国際交流に関連する企画立案、提言及び事業実施への協力支援の機能も期待されている。

(1) 国際学術交流及び国際交流事業に関すること。
(2) 外国人留学生の受入れに関すること。(外国人留学生入試に係るものは除く。)
(3) 外国人留学生の奨学金に関すること。
(4) 学生の海外留学に関すること。
(5) 外国人研究者の受入れに関すること。
(6) 外国人インターンシップ研修生の受入れに関すること。
(7) その他国際交流事業及び外国人留学生に関する事項

所　　属	職　名	氏　　名
ー	理事（研究・連携担当） 副学長 国際交流センター長	船　水　尚　行
国際交流センター	教　授	山　路　奈保子
国際交流センター	准教授	小　野　真　嗣
国際交流センター	特任助教	白　　尚　燁
創造工学科	教　授	相　津　佳　永
創造工学科	准教授	加　野　　裕
システム理化学科	教　授	鈴　木　幸　司
システム理化学科	教　授	岸　本　弘　立
理工学基礎教育センター	教　授	クラウゼ　小野　マルギット
理工学基礎教育センター	准教授	ジョンソン　マイケル　ポール (2020年8月31日まで)
理工学基礎教育センター	准教授	ペレム　ジョン　ガイ (2020年10月1日から)
しくみ解明系領域	准教授	佐　藤　和　彦
しくみ解明系領域	准教授	安　藤　哲　也
しくみ解明系領域	助　教	澤　田　紋　佳
国際交流室	室　長	伊　藤　光　春

5. 学内及び学外の会議等

5.1 国際交流委員会

国際交流委員会は、(1) 理事又は副学長のうちから学長が指名する者、(2) 国際交流センター長、(3) 国際交流センター専任教員、(4) 各学科及び全学共通教育センターから選出された講師以上の教員各 2 名（1 名は教授)、(5) 国際交流室長、(6) その他学長が必要と認めた者で組織される。

2020 年度の国際交流委員会開催日及び審議事項等は、以下のとおりである。

第 1 回 4 月 24 日(金)

議題1. 国際交流委員会における個人情報を伴う議題の審議方法について
2. 研究生（外国人留学生）の選考について
3. 研究生（外国人留学生）の研究期間延長について
4. 2020年度国際共同研修プログラム及び国際学術活動支援プロジェクトの採択について

報告1. 新型コロナウイルス感染症に関する対応について
2. 第3期中期目標・計画期間における令和2年度年度計画関係分について
3. 派遣留学生の選考結果について
4. 2020年度第1回研究推進経費（外国人客員研究員招へい）公募選考結果について

第 2 回 5 月 18 日(月)(持ち回り)

議題1. 研究生（外国人留学生）の出願資格認定について

第 3 回 7 月 20 日(月)

議題1. 研究生（外国人留学生）の出願資格認定について
2. 研究生（外国人留学生）の選考について
3. ムロラン・グローバル・ステージ・チャレンジ奨学生実施要項について
4. 外国人インターンシップ研修生受入要項に係る受入期間の変更について
5. 中国・天津大学知能・計算学部との学術交流協定締結について
6. ロシア・ヨッヘ研究所との学術交流協定更新について

報告1. 2020年４月留学生受入状況について
2. 民間団体等からの奨学金受給者の選考結果について
3. 派遣留学生の辞退について
4. タイ・チェンマイ大学のオンライン国際交流研修について
5. 特別研究学生（博士後期課程の外国人留学生）の研究期間延長について

第 4 回 10 月 7 日(水)

議題1. 室蘭工業大学私費外国人留学生支援奨学金受給者の選考について
2. 留学生受入れ促進プログラム（文部科学省外国人留学生学習奨励費）の受給者選考について
3. 研究生（外国人留学生）の選考について
4. ロシア・極東連邦大学との学術交流協定更新について
5. 台湾・大葉大学との学術交流協定更新について
6. ウクライナ・プリアゾフスキー国立工科大学との学術交流協定更新について

報告1. 2021年度学術交流協定に基づく派遣学生募集について
2. 日本学生支援機構海外留学支援制度（協定派遣，協定受入）の募集について
3. 外国人留学生への入国支援について
4. 民間団体等からの奨学金受給者の選考結果について

第 5 回 11 月 2 日(月)

議題1. 中国国家留学基金管理委員会（CSC）との協定締結及び関係要項の制定について

第6回　12月4日(金)
議題1. マレーシア・マレーシア工科大学との学術交流協定締結について
2. 日本の大学コンソーシアム（JUC）への加入について
3. 大使館推薦による国費外国人留学生の受入れ内諾について
4. 留学生受入れ促進プログラム（文部科学省外国人留学生学習奨励費）の新型コロナウイルス追加採用枠の受給者選考について

第7回　1月25日(月)
議題1. 韓国・釜慶国立大学校との学術交流協定締結について
2. 研究生（外国人留学生）の選考について
3. 特別研究学生（外国人留学生）の受入れについて
4. 室蘭工業大学短期留学生（受入れ）支援奨学金受給者の選考について
5. 留学生チューターの謝金単価引き上げについて
6. マレーシア・UTARとの学術交流協定更新について
報告1. 2020年10月以降に中止した派遣プログラムについて
2. 2021年度前期ムロラン・グローバル・ステージ・チャレンジ奨学生の公募について
3. 2021年度前期佐藤矩康博士記念国際活動奨学賞の募集について
4. 留学生受入れ促進プログラム（文部科学省外国人留学生学習奨励費）の新型コロナウイルス追加採用枠の受給者選考について
5. 第50回室蘭工業大学国際セミナーの開催について

第8回　2月22日(月)
議題1. フランス・トロワ工科大学との学術交流協定更新について
2. 2021年度国際共同研修プログラム及び国際学術活動支援プロジェクトの採択について
3. 研究生（外国人留学生）の研究期間延長について
4. 留学生チューターの勤務時間について
5. 大学推薦による国費外国人留学生（研究留学生）の選考について
報告1. 2021年度日本学生支援機構海外留学支援制度（協定派遣・協定受入）申請に係る採否結果について
2. 2021年度日本学生支援機構協定派遣「工学系グローバル人材育成派遣プログラム」の派遣学生募集について
3. 民間団体等からの奨学金受給者の選考結果について
4. 国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラムの申請結果について

第9回　3月5日(金)(持ち回り)
議題1. 研究生（外国人留学生）の出願資格認定について

第10回　3月23日(火)(持ち回り)
議題1. 研究生（外国人留学生）の研究期間延長について

5.2 国際交流センター教職員打合せ会議
定期的にセンター教職員が集まって連絡調整を兼ねた打合せ会議を開催している。

5.3 室蘭市国際交流推進協議会総会
室蘭市では、国際化時代に対応した地域づくりを進めるため、全市的視野から国際交流を推進することを目的に、室蘭市国際交流推進協議会を組織している。本学は会員として参加するとともに、会長職に空閑良壽学長が就任している。

開催日：5月18日（月）、場所：書面開催
主　催：室蘭市国際交流推進協議会
構　成：室蘭工業大学、一般財団法人 室蘭市スポーツ協会、室蘭商工会議所、国際ソロプチミスト室蘭、室蘭文化連盟、登別室蘭青年会議所、胆振国際理解教育研究会、室蘭ロータ

リークラブ、室蘭ライオンズクラブ、室蘭市女性団体連絡協議会、一般財団法人 室蘭ルネッサンス、ノックスビルの会、日照市と友好の会、その他諸団体・機関

議　題：1. 令和元年度主な事業実績について
2. 令和元年度収支決算報告について
3. 令和２年度主な事業計画（案）について
4. 令和２年度収支予算書（案）について

5.4 マレーシア日本高等教育プログラム(MJHEP)大学説明会

開催日：6月13日（土)、場所：オンライン開催
出　席：風間教授、花島教授、小野准教授、武川留学生係長
主　催：YPM（マラ教育財団）
内　容：MJHEP 大学説明会（日本の大学への3年次編入学者対象）

5.5 令和2年度北海道･中国交流推進連携会議

開催日：8月7日（金)、場所：書面開催
主　催：北海道
・令和元年度中国との交流について（実績）
・令和２年度中国との交流について（予定）
・北海道・黒竜江省友好提携35周年記念事業実施に向けて連携・協力が可能な事業について
・北海道・中国交流推進連携会議運営要項（令和2年度改正版）

5.6 ハノイ工科大学と日本コンソーシアム大学とのツイニング･プログラム大学フェスタ

開催日：8月21日（金)、場所：オンライン開催
出　席：花島教授、小野准教授、武川留学生係長
主　催：長岡技術科学大学
内　容：Web 上でのオープンキャンパス及び大学説明会（日本の大学への3年次編入学者対象）

5.7 令和2年度全国国立大学法人留学生センター長及び留学生課長等合同会議

開催日：10月20日（火)、場所：メール開催
主　催：静岡大学（当番校）
・政府等機関の所管事項・事業等説明資料
・各国立大学法人からの承合事項及び回答一覧
・２つの全国国際系会議の統合に向けての検討状況

5.8 令和2年度国立大学法人等国際企画担当責任者連絡協議会

開催日：10月29日（木)、場所：メール開催
主　催：北海道大学（当番校）
・次年度に向けての検討事項
「『全国国立大学法人留学生センター長及び留学生担当課長等合同会議』との今後の運営方針の検討について」
・施策等説明資料の情報共有

5.9 ハノイ工科大学と日本コンソーシアム大学とのツイニング･プログラム大学説明会

開催日：11月17日（火)、場所：オンライン開催
出　席：花島教授
主　催：長岡技術科学大学
内　容：大学説明会（日本の大学への3年次編入学者対象）

5.10　日本留学オンラインフェア

開催日：12月13日（日）、場所：オンライン開催
出　席：小野准教授、武川留学生係長
主　催：独立行政法人日本学生支援機構
内　容：動画配信及び大学説明会

5.11　令和2年度北海道留学生交流推進協議会総会

開催日：12月18日（金）、場所：オンライン開催
主　催：北海道大学
・講演
「留学生受入における学内外との連携及び取組について」
ラフェイ　ミシェル　ケイ（北海道大学総長補佐・文学研究院准教授）
・報告
各団体からの報告事項等
北海道内における留学生受入等の現状について
石黒公美（北海道大学学務部学生支援課課長補佐）

5.12　帝京マレーシア日本語学院進学説明会

開催日：12月19日（土）、場所：オンライン開催
出　席：小野准教授

5.13　令和2年度室蘭工業大学留学生交流推進懇談会

本学の留学生は、市内外の国際交流推進関係諸団体から種々の支援を受けている。本懇談会は、これら諸団体に対し本学の留学生に対する取組状況等を説明し、意見交換を通して理解を得るとともに、今後の留学生受入れ及び学生生活に係るなお一層の支援を仰ぎ、留学生交流事業の円滑な推進を図ることを目的として開催した。

開催日：2月16日（火）、場所：オンライン開催
主　催：室蘭工業大学国際交流センター
出席団体：室蘭市役所、室蘭ロータリークラブ、一般財団法人 室蘭ルネッサンス、室蘭消費者協会、室蘭観光協会、留学生フレンドシップ
・大学からの説明
室蘭工業大学の留学生受入れ・派遣状況及び交流状況について
・意見交換
留学生と地域の交流等にかかる各支援団体からの要望について

5.14　多文化共生ネットワーク連携推進協議会

開催日：3月2日（火）、場所：オンライン開催
出　席：髙橋留学生係員
主　催：公益社団法人北海道国際交流・協力総合センター
・議事
多文化共生事業の取組状況
北海道外国人相談センター移動相談会の効果的な周知と開催
災害時における広域連携の体制づくりと取組

6. 国際学術交流

国際学術交流協定

本学は、教育研究活動の国際化を進めるために、海外の大学、研究機関と学術交流協定を締結し、交流の促進に努めている。2020 年度末時点で 48 大学・4 機関と協定を締結し、研究交流ならびに学生交流を推進している。

国・地域別では中国 10 大学、韓国 8 大学・1 機関、ドイツ 4 大学、タイ 4 大学、ロシア 1 大学・2 機関、台湾 3 大学、フィンランド 2 大学、アメリカ1大学・1機関、マレーシア 2 大学、ブラジル、フランス、オーストラリア、オーストリア、ハンガリー、ポーランド、ウクライナ、イタリア、ベトナム、インド、インドネシア、モンゴル、ネパールが各 1 大学である。

2020 年度は、中国の大連理工大学と天津大学・知能計算学部、マレーシアのマレーシア工科大学、韓国の釜慶大学校との交流協定を締結した。韓国の釜慶大学校との交流協定は、従来の同大学工科大学との協定を大学間に拡大したものである。また、ロシアのヨッヘ研究所と極東連邦大学、台湾の大葉大学、ウクライナのプリアゾフスキー国立工科大学、マレーシアの UTAR、フランスのトロワ工科大学との交流協定の更新が行われた。

【国際学術交流協定】

以下のとおり、2020 年度末において国際学術交流協定は 48 大学・4 機関である。

(注)担当教員名は上段より連絡窓口 1、2、3 の順に記載

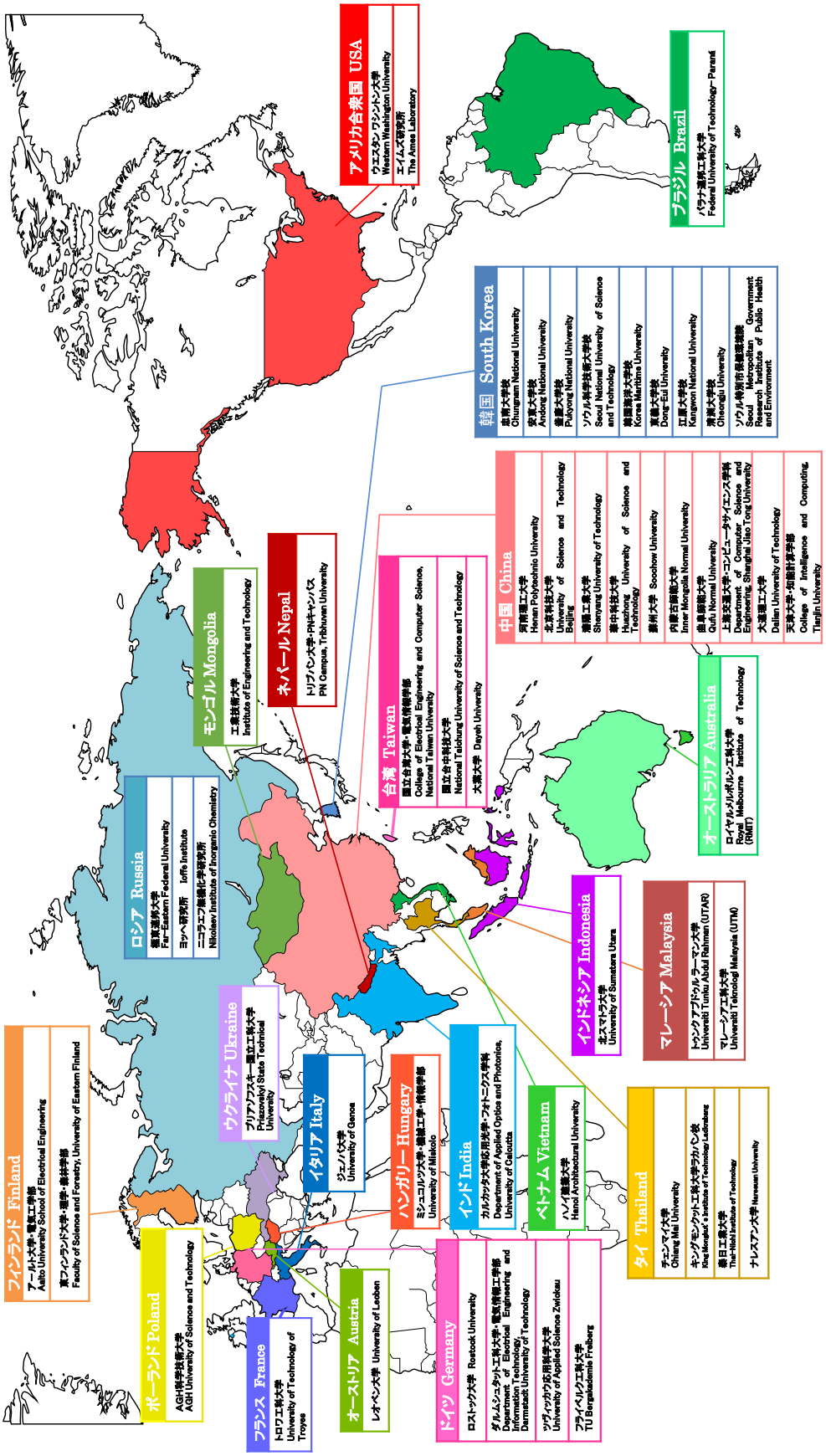
	締結大学・機関名	国・地域	締結年月日	担当教員名
1	河南理工大学	中国	1988 年 11 月 11 日	教　授　青　柳　学
2	ロイヤルメルボルン工科大学	オーストラリア	1999 年 3 月 9 日	准教授　小 野　真 嗣 教　授　山 路 奈 保 子
3	ウェスタンワシントン大学	アメリカ	2000 年 10 月 27 日	准教授　ゲイナー ブライアン 准教授　小 野　真 嗣
4	アールト大学電気工学部	フィンランド	2001 年 3 月 15 日	教　授　鈴 木　幸 司 教　授　濱　幸 雄
5	北京科技大学	中国	2004 年 2 月 2 日	教　授　濱　幸 雄 准教授　倉 重 健 太 郎
6	ロストック大学	ドイツ	2019 年 10 月 10 日 (情報電気工学部とは 2004 年 2 月 20 日)	教　授　川 口　秀 樹 教　授　クラウゼ小野　マルギット
7	忠南大学校	韓国	2004 年 4 月 20 日	教　授　濱　幸 雄 教　授　鈴 木　幸 司
8	安東大学校	韓国	2004 年 6 月 8 日	特任助教　白　尚 燁 教　授　藤 木　裕 行
9	釜慶大学校	韓国	2021 年 3 月 17 日 (工科大学とは 2004 年 9 月 1 日)	教　授　張　俗 喆 助　教　金　志 訓 特任助教　白　尚 燁
10	チェンマイ大学	タイ	2005 年 4 月 19 日	教　授　風 間　俊 治 助　教　関　千 草

11	キングモンクット工科大学 ラカバン校	タイ	2005 年 4 月 20 日	教　授　相津　佳永 准教授　真境名達哉
12	ニコラエフ無機化学研究所	ロシア	2005 年 5 月 30 日	教　授　平井　伸治 准教授　葛谷　俊博
13	レオベン大学	オーストリア	2006 年 10 月 10 日	教　授　佐藤　孝紀 准教授　武田　圭生 講　師　松本　大樹
14	ミシュコルツ大学 機械工学・情報学部	ハンガリー	2006 年 11 月 13 日	教　授　佐藤　孝紀 准教授　武田　圭生 講　師　松本　大樹
15	ハノイ建築大学	ベトナム	2007 年 3 月 27 日	教　授　木幡　行宏 准教授　山田　深
16	ソウル科学技術大学校	韓国	2007 年 7 月 25 日	教　授　張　俗喆 教　授　岸本　弘立
17	ダルムシュタット工科大学 電気情報工学部	ドイツ	2007 年 11 月 9 日	教　授　川口　秀樹 教　授　渡邊　浩太
18	瀋陽工業大学	中国	2007 年 11 月 9 日	特任助教　白　尚燁
19	華中科技大学	中国	2007 年 11 月 12 日	教　授　清水　一道 教　授　董　冕雄
20	蘇州大学	中国	2007 年 11 月 26 日	准教授　太田　香 准教授　渡邉　真也
21	内蒙古師範大学	中国	2008 年 6 月 2 日	准教授　徳樂　清孝 准教授　加野　裕
22	韓国海洋大学校	韓国	2009 年 1 月 19 日	教　授　木村　克俊 准教授　吉田　英樹
23	AGH科学技術大学	ポーランド	2009 年 8 月 27 日	教　授　須藤　秀紹
24	極東連邦大学	ロシア	2010 年 2 月 19 日	准教授　安居光國 教　授　濱　幸雄
25	泰日工業大学	タイ	2010 年 4 月 1 日	教　授　須藤　秀紹 教　授　藤木　裕行
26	プリアゾフスキー国立工科大学	ウクライナ	2010 年 11 月 11 日	教　授　清水　一道 准教授　吉田　英樹
27	大葉大学	台湾	2010 年 12 月 1 日	教　授　山路奈保子
28	ヨッヘ研究所	ロシア	2011 年 7 月 12 日	教　授　平井　伸治 教　授　関根ちひろ 准教授　葛谷　俊博
29	ツヴィッカウ応用科学大学	ドイツ	2012 年 6 月 8 日	教　授　クラウゼ小野　マルギット 教　授　相津　佳永 教　授　須藤　秀紹
30	ソウル特別市保健環境研究院	韓国	2012 年 9 月 20 日	教　授　張　俗喆 准教授　矢島　由佳

31	北スマトラ大学	インドネシア	2013 年 2 月 15 日	教　授　河 合　秀 樹 教　授　大 平　勇 一
32	曲阜師範大学	中国	2013 年 4 月 1 日	教　授　河 合　秀 樹
33	東義大学校	韓国	2014 年 6 月 23 日	教　授　岸 本　弘 立
34	江原大学校	韓国	2014 年 10 月 3 日	教　授　岸 本　弘 立
35	パラナ連邦工科大学	ブラジル	2014 年 10 月 7 日	教　授　清 水　一 道 教　授　木 村　克 俊
36	トゥンクアブドゥルラーマン大学	マレーシア	2016 年 3 月 1 日	准教授　佐 藤　和 彦 教　授　塩 谷　浩 之 教　授　濱　幸 雄
37	トロワ工科大学	フランス	2016 年 3 月 1 日	准教授　加 野　裕 教　授　辻　寧 英
38	国立台中科技大学	台湾	2019 年 12 月 1 日 （情報流通学院とは 2016 年 11 月 8 日）	教　授　須 藤　秀 紹 教　授　山 路　奈 保 子
39	カルカッタ大学 応用光学・フォトニクス学科	インド	2016 年 11 月 10 日	教　授　相 津　佳 永
40	上海交通大学 コンピュータサイエンス学科	中国	2016 年 12 月 26 日	教　授　董　冕 雄
41	エイムズ研究所	アメリカ	2017 年 5 月 16 日	教　授　平 井　伸 治 准教授　葛 谷　俊 博
42	工業技術大学	モンゴル	2017 年 6 月 27 日	准教授　小 野　真 嗣 教　授　濱　幸 雄 講　師　松 本　大 樹
43	国立台湾大学・電気情報学部	台湾	2018 年 11 月 13 日	教　授　董　冕 雄 准教授　太 田　香
44	トリブバン大学 プリティビナラヤンキャンパス	ネパール	2019 年 1 月 23 日	准教授　佐 藤　和 彦
45	フライベルク工科大学	ドイツ	2019 年 1 月 25 日	教　授　クラウゼ小野　マルギット 准教授　安 居　光 國
46	東フィンランド大学 理学・森林学部	フィンランド	2019 年 3 月 18 日	教　授　鈴 木　幸 司 准教授　渡 邊　真 也 教　授　董　冕 雄
47	清洲大学校	韓国	2019 年 8 月 19 日	教　授　濱　幸 雄 准教授　髙 瀬　裕 也 助　教　金　志 訓
48	ナレスアン大学	タイ	2019 年 9 月 19 日	教　授　須 藤　秀 紹
49	ジェノバ大学	イタリア	2019 年 10 月 7 日	教　授　平 井　伸 治 准教授　雨 海　有 佑 准教授　葛 谷　俊 博

50	大連理工大学	中国	2020 年 5 月 9 日	教　授　董　冕雄 准教授　曲　明
51	天津大学・知能計算学部	中国	2020 年 9 月 22 日	教　授　董　冕雄 准教授　太　田　香
52	マレーシア工科大学	マレーシア	2021 年 1 月 15 日	教　授　大平　勇一 准教授　小野　真嗣 特任助教　白　尚燁

図1　本学の学術交流協定校・機関



7. 外国人留学生

7.1 留学生数

本学は、1979 年から外国人留学生を受入れており、2007 年の国際交流センター設置後、留学生数も大幅に増え始め、2009 年に初めて 100 名に、2017 年には 150 名に到達し、2021 年は 214 名を受け入れるに至った。

留学生数(学科別・学年別)を表 1 に、留学生数(国籍別・身分別)を表 2 に、留学生数(年度別)を表 3 に、過去 20 年の留学生数(年度別)の推移をグラフ 1 に示す。なお、本活動報告書は 2020 年度版であるが、最新のデータとして 2021 年 5 月 1 日の数字を計上した。

表 1 留学生数(学科・学年別)集計(2021 年 5 月 1 日現在 計 214 名)

【学部】

学　科　名	1年	2年	3年	4年	合計
創造工学科	10	10	17	−	37
システム理化学科	2	9	9	−	20
建築社会基盤系学科	−	−	−	13	13
機械航空創造系学科	−	−	−	10	10
応用理化学系学科	−	−	−	11	11
情報電子工学系学科	−	−	−	13	13
合　　計	12	19	26	47	104

【博士前期課程】

専　攻　名	1年	2年	合 計
環境創生工学系専攻	6	7	13
生産システム工学系専攻	3	5	8
情報電子工学系専攻	11	14	25
合　　計	20	26	46

【その他】

研究生	12
科目等履修生	0
特別研究学生	1
特別聴講学生	0
合　　計	13

【博士後期課程】

専　攻　名	1年	2年	3年	合計
工学専攻先端環境創生工学コース	7	5	10	22
工学専攻先端生産システム工学コース	0	6	3	9
工学専攻先端情報電子工学コース	8	5	7	20
合　　計	15	16	20	51

表２ 留学生数(国・身分別)集計(2021 年５月１日現在)

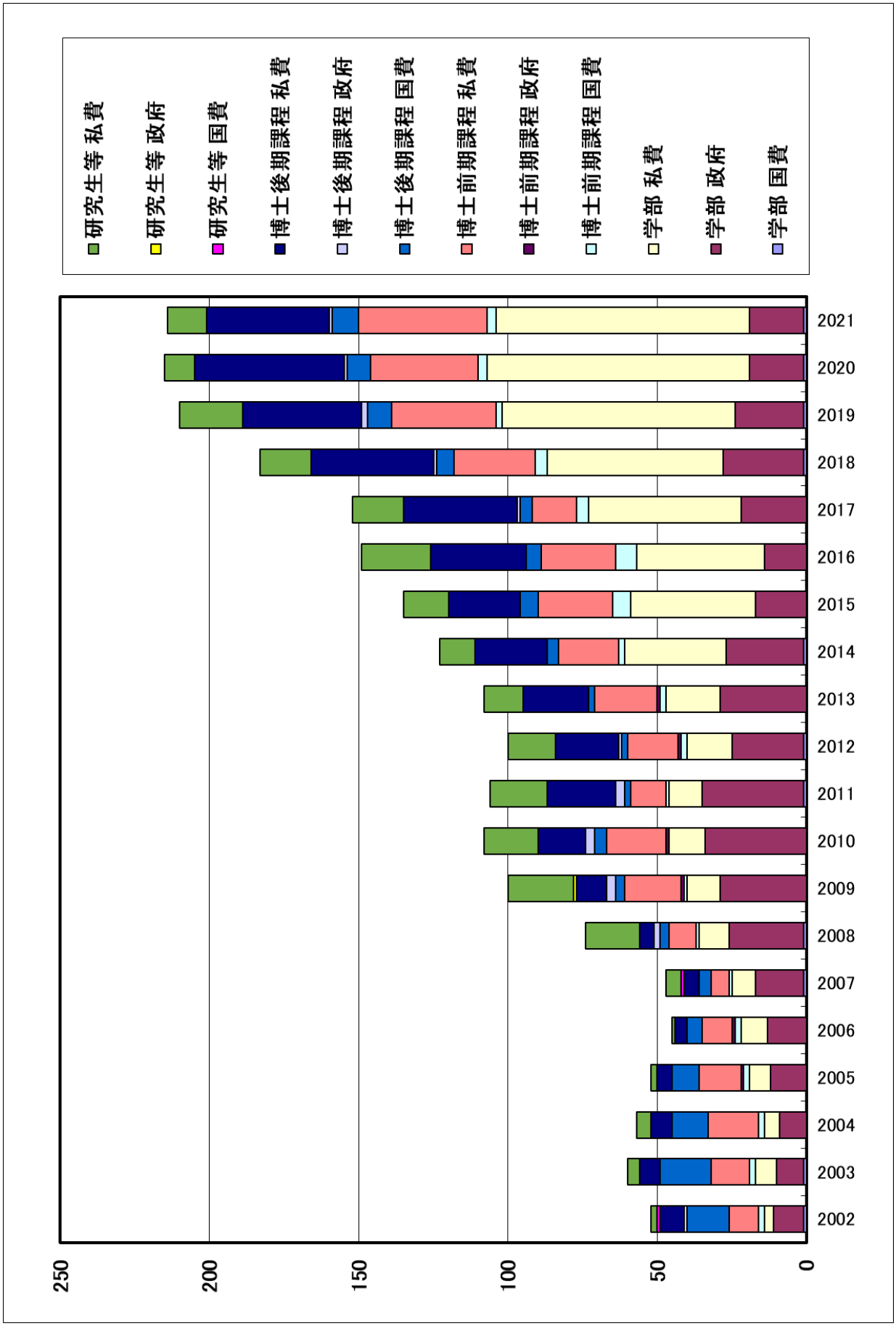
国 名	学 部			小計	博士前期課程			小計	博士後期課程			小計	研究生等			小計	合 計			総計
	国費	政府	私費		国費	政府	私費		国費	政府	私費		国費	政府	私費		国費	政府	私費	
中国	0	0	64	64	0	0	32	32	0	0	27	27	0	0	12	12	0	0	135	135
ﾏﾚｰｼｱ	0	18	11	29	0	0	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	18	15	33
韓国	0	0	6	6	0	0	1	1	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	9	9
ﾍﾞﾄﾅﾑ	0	0	1	1	0	0	2	2	2	0	4	6	0	0	0	0	2	0	7	9
ｲﾝﾄﾞ	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	4	6	0	0	0	0	2	0	4	6
ﾀｲ	0	0	1	1	1	0	0	1	1	1	2	4	0	0	0	0	2	1	3	6
ﾊﾞﾝｸﾞﾗﾃﾞｼｭ	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	3	0	0	0	0	2	0	1	3
ｲﾝﾄﾞﾈｼｱ	0	0	0	0	1	0	1	2	1	0	0	1	0	0	0	0	2	0	1	3
ﾈﾊﾟｰﾙ	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	3	3
ﾗｵｽ	1	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2
ﾓﾝｺﾞﾙ	0	0	1	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
ﾊﾟｷｽﾀﾝ	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2	0	0	0	0	1	0	1	2
ｻｳｼﾞｱﾗﾋﾞｱ	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
小計	1	18	85	104	3	0	43	46	9	1	41	51	0	0	13	13	13	19	182	214

注1 学部私費留学生には MJHEP プログラム５名を含む。

表 3 留学生数(年度別)集計(各年 5 月 1 日現在)

	学　部			博士前期課程			博士後期課程			研究生等			小　計			合　計
	国費	政府	私費	国費	政府	私費	国費	政府	私費	国費	政府	私費	国費	政府	私費	
1979	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	0	2
1980	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	4	0	4
1981	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	5
1982	0	6	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	7	0	8
1983	0	6	0	1	0	0	0	0	0	0	2	0	1	8	0	9
1984	0	4	0	1	0	1	0	0	0	0	3	0	1	7	1	9
1985	0	1	0	0	0	3	0	0	0	0	4	0	0	5	3	8
1986	0	0	0	1	1	1	0	0	0	1	3	0	2	4	1	7
1987	0	0	0	3	0	1	0	0	0	0	1	1	3	1	2	6
1988	0	0	0	5	0	0	0	0	0	5	0	1	10	0	1	11
1989	0	2	0	11	0	0	0	0	0	1	3	0	12	5	0	17
1990	0	4	0	14	0	0	2	0	0	3	2	3	19	6	3	28
1991	0	5	0	11	0	1	5	0	0	1	0	3	17	5	4	26
1992	0	5	0	8	2	5	9	0	4	1	0	2	18	7	11	36
1993	0	3	0	7	5	9	11	0	5	5	0	0	23	8	14	45
1994	0	2	1	12	4	8	12	0	6	3	0	1	27	6	16	49
1995	0	3	2	8	1	8	14	0	5	3	0	1	25	4	16	45
1996	0	5	5	5	1	5	14	0	4	9	0	4	28	6	18	52
1997	0	11	5	12	0	3	15	0	2	0	0	4	27	11	14	52
1998	0	14	4	12	0	3	11	0	4	2	0	4	25	14	15	54
1999	0	14	2	9	0	2	13	0	6	3	0	4	25	14	14	53
2000	0	13	2	10	1	7	12	0	3	3	0	3	25	14	15	54
2001	0	12	3	5	1	11	18	0	3	1	0	1	24	13	18	55
2002	1	10	3	2	0	10	14	1	8	1	0	2	18	11	23	52
2003	1	9	7	2	0	13	17	0	7	0	0	4	20	9	31	60
2004	0	9	5	2	0	17	12	0	7	0	0	5	14	9	34	57
2005	0	12	7	2	1	14	9	0	5	0	0	2	11	13	28	52
2006	0	13	9	2	1	10	5	0	4	0	0	1	7	14	24	45
2007	1	16	8	1	0	6	4	0	5	1	0	5	7	16	24	47
2008	1	25	10	1	0	9	3	2	5	0	0	18	5	27	42	74
2009	0	29	11	1	1	19	3	3	10	0	1	22	4	34	62	100
2010	0	34	12	0	1	20	4	3	16	0	0	18	4	38	66	108
2011	1	34	11	1	0	12	2	3	23	0	0	19	4	37	65	106
2012	1	24	15	2	1	17	2	1	21	0	0	16	5	26	69	100
2013	0	29	18	2	1	21	2	0	22	0	0	13	4	30	74	108
2014	1	26	34	2	0	20	4	0	24	0	0	12	7	26	90	123
2015	0	17	42	6	0	25	6	0	24	0	0	15	12	17	106	135
2016	0	14	43	7	0	25	5	0	32	0	0	23	12	14	123	149
2017	0	22	51	4	0	15	4	1	38	0	0	17	8	23	121	152
2018	1	27	59	4	0	27	6	1	41	0	0	17	11	28	144	183
2019	1	23	78	2	0	35	8	2	40	0	0	21	11	24	174	210
2020	1	18	88	3	0	36	8	1	50	0	0	10	12	19	184	215
2021	1	18	85	3	0	43	9	1	41	0	0	13	13	19	182	214

グラフ１　過去20年の留学生数（年度別）集計の推移（各年５月１日現在）



7.2 奨学金

私費外国人留学生の奨学金受給状況は表 4 のとおりであり、私費留学生の 36%が奨学金を受給している。

表 4 各種奨学金の受給(身分別)状況(2020 年 10 月 1 日現在)

奨 学 金 名	学 部 (87)	博士 前期課程 (40)	博士 後期課程 (49)	研究生 (16)	特別 研究学生 (1)	特別 聴講学生 (0)	科目等 履修生 (0)	合 計 (193)
室蘭工業大学私費外国人留学生支援奨学金(月額 30,000 円)	6	14	12	0	0	0	0	32
室蘭工業大学短期留学生(受入れ)支援奨学金(月額 50,000 円)	0	0	0	0	0	0	0	0
JASSO 私費外国人留学生学習奨励費(月額 48,000 円)	1	5	3	0	0	0	0	9
JASSO 私費外国人留学生学習奨励費(コロナ特別枠)(10 月分 48,000 円)	8	3	2	0	0	0	0	13
北海道外国人留学生国際交流支援事業助成金(年額 50,000 円)	0	10	8	0	0	0	0	18
財団法人ロータリー米山記念奨学会奨学金(大学院)(月額 140,000 円)	0	0	1	0	0	0	0	1
財団法人ロータリー米山記念奨学会奨学金(学部)(月額 100,000 円)	1	0	0	0	0	0	0	1
財団法人日揮・実吉奨学会留学生給与奨学金(年額 300,000 円)	0	1	0	0	0	0	0	1
ドコモ留学生奨学金(月額 120,000 円)	0	1	0	0	0	0	0	1
JEES 留学生奨学金(修学)(月額 40,000 円)	0	2	0	0	0	0	0	2
髙山奨学金(月額 120,000 円)	2	0	0	0	0	0	0	2
中国政府奨学金(月額 150,000 円、170,000 円)	0	0	1	0	1	0	0	2
タイ政府奨学金(月額 172,500 円)	0	0	1	0	0	0	0	1
マレーシア MJHEP プログラム(月額 132,250 円)	4	0	0	0	0	0	0	4
朝鮮奨学金(学部)(月額 25,000 円)	1	0	0	0	0	0	0	1
合 計	23	36	28	0	1	0	0	88

注１　実受給者数は、69 名である。
注２　上段（　）は、私費外国人留学生数である。
注３　2020 年度室蘭工業大学私費外国人留学生支援奨学金の延べ受給者数は、40 名であった。
注４　2020 年度室蘭工業大学短期留学生（受入れ）支援奨学金の延べ受給者数は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響により、0 名であった。
注５　JASSO 私費外国人留学生学習奨励費(コロナ特別枠)は、1 月に 27 名の追加採用があった。

7.3 宿舎

(1)研究員宿舎

宿舎名	部屋タイプ
国際交流会館(研究員宿舎)	シングル:6 室、ツイン:1 室

(2)留学生宿舎

宿舎名	部屋タイプ	入居期間
国際交流会館(留学生宿舎 1)	1 名入居、 12 室	1 年
明徳寮	3 名入居、 25 室	1 年
大昭グリーンヒル2(留学生宿舎 2 ※)	1 名入居、 8 室	1 年

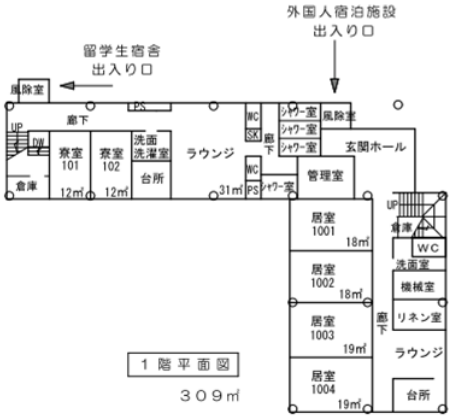
※ 2019 年 10 月より大学が借り上げた指定宿舎として運用。

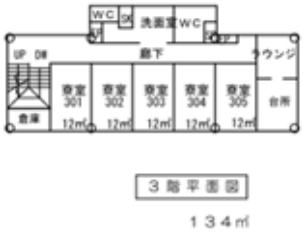
この他に室蘭市から、市営住宅 24 室を留学生用の宿舎として借り受けている。

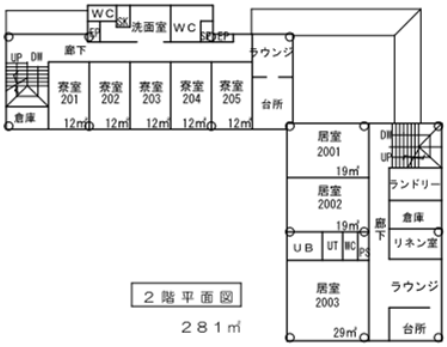
7.3.1 国際交流会館

2012 年度に職員会館と旧留学生宿舎を改修し、2012 年 11 月に外国人研究員宿泊施設と留学生宿舎を併設した国際交流会館を竣工し、運用を開始した。

外観



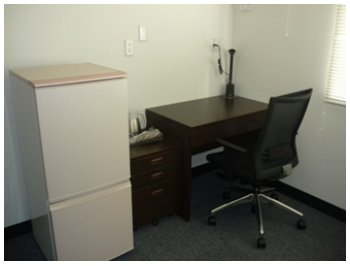




国際交流会館（研究員宿舎）

玄関ロビー

キッチン（共同）



個室

国際交流会館（留学生宿舎 1）

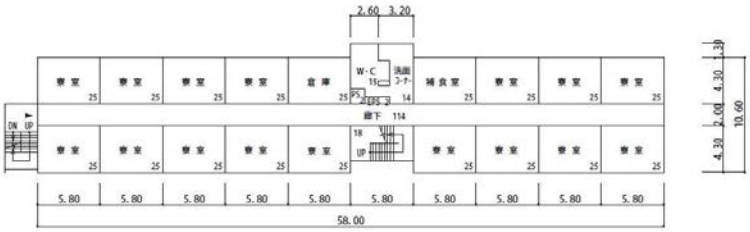
ラウンジ

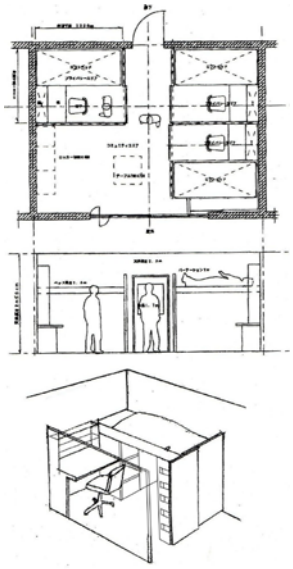
キッチン（共同）

個室

7.3.2 明徳寮　A棟 3 階（9 室）・4 階

外観





個室ブース

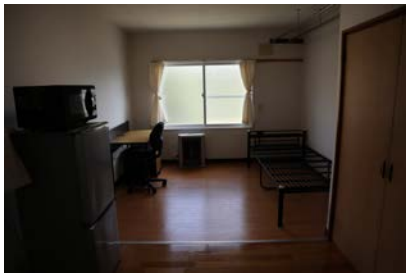
補食室（各階共同）

浴室（共同）

洗濯室（共同）

7.3.3 大昭グリーンヒル 2(留学生宿舎 2)

外観



個室

台所

7.3.4 市営住宅(水元団地)

外観

和室

台所

8. 国際交流センター教員が担当した講義

8.1 国際交流センター教員担当講義一覧

国際交流センター教員が 2020 年度に担当した講義は、以下のとおりである。新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響により、前期（第 1・第 2 クオーター）は、すべて遠隔での実施となった。日本に入国できなかった留学生も自国から参加した。例年実施している「日本語会話入門」は、対象となる学生の多くが来日できず、内容的に海外での学習には適さないため、2020 年度は前期・後期とも実施を見送った。

後期は、開講後二週間は大学全体の方針により遠隔で実施した。その後、学生の入国状況や、北海道内における新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の拡大状況に応じて、遠隔での実施を継続したものや、遠隔と対面のハイフレックスで実施したものが一部ある。

2020 年度前期（第 1・第 2 クオーター）	2020 年度後期（第 3・第 4 クオーター）
初級日本語注1	初級日本語
日本語初級ＩA	日本語初級ＩA
日本語初級ＩB	日本語初級ＩB
日本語初級Ⅱ	日本語初級Ⅱ
学部生対象　日本語科目	学部生対象　日本語科目
日本語 A1 （読解）	日本語 A2 （読解）
日本語 B1 （作文）注2	日本語 B2 （作文）注2
日本語 C1 （科学技術日本語）注2	日本語 C2 （日本事情：日本文化と社会）注2
日本語 D1 （日本語能力試験対策）	日本語 D2 （日本語能力試験対策）
大学院生対象　日本語科目	大学院生対象　日本語科目
日本語 MA1 （会話）	日本語 MA2 （会話）
日本語 MB1 （作文上級）注2	日本語 MB2 （作文上級）注2
日本語 MC1 （科学技術日本語）注2	日本語 MC2 （日本事情：日本文化と社会）注2
日本語 MD1 （作文中級）	日本語 MD2 （作文中級）
学部・大学院　共通科目	学部・大学院　共通科目
海外語学研修注4【実施なし】	異文化交流 A/B/MB 注3
海外研修注4	海外語学研修注4【実施なし】
国際関係論(昼間)注5	海外研修注4【実施なし】
国際関係論特論注5	国際関係論(昼間)[特設クラス] 注5

注1　初級日本語は、第 1 クオーターのみ正規科目（「漢字と作文」を除く）で、第 2 クオーター以降は非正規科目（単位付与なし）である。
注2　B1 と MB1、C1 と MC1、B2 と MB2、C2 と MC2 はそれぞれ同一授業（学部・大学院合同授業）である。
注3　A は理工学部、B は工学部、MB は大学院対象の科目名称である。異文化交流 B/A/MA の担当は、理工学基礎教育センター所属のクラウゼ小野マルギット教員である。
注4　海外語学研修、海外研修については第 12 章に述べる。
注5　国際交流センター教員が窓口となって開講している非常勤講師科目である。

8.2 初級日本語授業

国際交流センターでは、日本語学習経験が少ない、又は全くない学生を対象に初級レベルの日本語コースを開講している。主に大学院生、研究生及び本学協定校からの交換留学生が受講する。

(1)日本語初級ⅠA(前期)　＜遠隔、同時双方向・オンデマンド併用＞
担当:山路奈保子　時間数:3 時間(2 回)／週　受講者数:3 名
使用教材:『日本語初級Ⅰ　大地』(12 課まで)
(2) 日本語初級ⅠA(後期)　＜遠隔→ハイフレックス、同時双方向・オンデマンド併用＞
担当:山路奈保子　時間数:3 時間(2 回)／週　受講者数:12 名
使用教材:『日本語初級Ⅰ　大地』(12 課まで)
(3)日本語初級ⅠB(前期)　＜遠隔、同時双方向・オンデマンド併用＞
担当:伊藤直美(非常勤講師)　時間数:3 時間(2 回)／週
受講者数:4 名　使用教材:『日本語初級Ⅰ　大地』(13 課以降)
(4)日本語初級ⅠB(後期)　＜遠隔、同時双方向・オンデマンド併用＞
担当:伊藤直美(非常勤講師)　時間数:3 時間(2 回)／週
受講者数:3 名　使用教材:『日本語初級Ⅰ　大地』(13 課以降)
(5) 日本語初級Ⅱ(前期)　＜遠隔、同時双方向＞
担当:山本さやか(非常勤講師)　時間数:3 時間(2 回)／週
受講者数:7 名　使用教材:『日本語初級Ⅱ　大地』(32 課まで)
(6) 日本語初級Ⅱ(後期)　＜遠隔、同時双方向＞
担当:山本さやか(非常勤講師)　時間数:3 時間(2 回)／週
受講者数:3 名　使用教材:『日本語初級Ⅱ　大地』(32 課まで)

8.3 学部・大学院　日本語科目

【学部生対象】

正規の日本語科目は、学部生対象科目(中～上級)と大学院生対象科目(初～中級)および学部生・大学院生対象科目(中級)があり、各自が強化したい技能に応じて授業を選択できるようになっている。

(1) 日本語 A1(前期)　＜遠隔、同時双方向＞
担当:小野真嗣　時間数:1.5 時間(1 回)／週
レベル:上級　受講者数:8 名
授業内容:日本語の読解力を高めることを希望する学生向けに、新聞記事を中心とした長文を正確に読解し、選択問題を通じた内容理解、及び記述回答、200 字程度の意見論述を行う授業を展開した。
(2) 日本語 A2(後期)　＜遠隔→対面→遠隔、同時双方向・オンデマンド併用＞
担当:小野真嗣　時間数:1.5 時間(1 回)／週
レベル:上級　受講者数:6 名
授業内容:日本語のさまざまな文章を批判的に読み、議論を行うことを通じて、他者の思考を理解し自己の思考を深めること、およびそれを論理的に伝えるための表現力の養成を図った。

(3) 日本語 D1(前期)　＜遠隔、オンデマンド＞

担当:山本さやか(非常勤講師)　時間数:1.5 時間(1 回)／週

レベル:中上級　受講者数:4 名

授業内容:日本語能力試験N1受験を希望する学生のために、対策問題集を使って語彙・文法・読解を中心に受験対策の授業を行った。

(4) 日本語 D2(後期)　＜遠隔、オンデマンド＞

担当:山本さやか(非常勤講師)　時間数:1.5 時間(1 回)／週

レベル:中上級　受講者数:8 名

授業内容:前期と同様の授業展開である。

【大学院生対象】

(5) 日本語 MA1(前期)　＜遠隔、同時双方向・オンデマンド併用＞

担当:山路奈保子　時間数:1.5 時間(1 回)／週

レベル:初級　受講者数:2 名

使用教材:『日本語初級 2　大地』33 課以降

授業内容:　初級後半の文型・表現を用いて会話力の向上を図った。

(6) 日本語 MA2(後期)　＜遠隔→対面→遠隔、同時双方向・オンデマンド併用＞

担当:山路奈保子　時間数:1.5 時間(1 回)／週

レベル:初級　受講者数:5 名

使用教材:『日本語初級2　大地』33 課以降

授業内容:　前期と同内容である。

(7) 日本語 MD1(前期)　＜遠隔、同時双方向＞

担当:山路奈保子　時間数:1.5 時間(1 回)／週

レベル:中級　受講者数:1 名

授業内容:長文読解を行いつつ、関連したテーマで 400 字程度の説明文や意見文を書く練習を行った。

(8) 日本語 MD2(後期)　＜遠隔→対面、同時双方向＞

担当:山路奈保子　時間数:1.5 時間(1 回)／週

レベル:中級　受講者数:2 名

授業内容:書き言葉の基本を学び、段落構成を意識しつつ経過の説明や構造・仕様の説明をする文章を書く練習を行った。またプレゼンテーション資料の作成の練習も行った。

【学部・大学院共通】

(9) 日本語 B1・MB1(前期)　＜遠隔、同時双方向・オンデマンド併用＞

担当:山路奈保子　時間数:1.5 時間(1 回)／週

レベル:中級～上級　受講者数:10 名

授業内容:文章作成に必要な日本語の知識の導入と日本語による文章作成の基礎的な訓練を行った。コースの前半では読み手の立場に立った分かりやすい文章の書き方、後半では論理的な文章の構造や表現を扱い、アカデミックな文章を書くための基礎的技

能の育成を図った。

(10) 日本語 B2・MB2(後期)　＜遠隔→ハイフレックス、同時双方向・オンデマンド併用＞

担当:山路奈保子　時間数:1.5 時間(1 回)／週

レベル:中級～上級　受講者数:14 名

授業内容:さまざまな作文課題やクラスでのディスカッションを通して、日本語のアカデミック・ライティング能力および論理的思考力の養成を行うとともに、論理的文章の作成に必要な様々な表現を目的に応じて使用できるようになるための訓練を行った。

(11) 日本語 C1・MC1(前期)　＜遠隔、同時双方向＞

担当:小野真嗣　時間数:1.5 時間(1 回)／週

レベル:中級　受講者数:6 名

授業内容:科学技術分野にかかわるトピックのテレビ番組や雑誌記事等を材料に、大学・大学院で学ぶための基礎的な語彙・表現を理解し適切な文脈で使用できるようになるとともに、抽象的な事柄を説明する文章を組み立てられるようになることをめざす総合的な訓練を行った。遠隔授業により、Moodle を介してビデオ映像や音源の配信が容易になり、授業外の視聴も一部で自主的に行われていたようである。

(12) 日本語 C2・MC2(後期)　＜遠隔→対面→遠隔、同時双方向・オンデマンド併用＞

担当:小野真嗣　時間数:1.5 時間(1 回)／週

レベル:中級　受講者数:4 名

授業内容:日本の文化・社会に焦点を当て、導入教材として文献資料やビデオを用い言語受容力を養いつつ、日本と自国の慣習、文化、宗教等の差異についても客観的に説明できる発信力の養成を図った。遠隔授業により、Moodle を介してビデオ映像や音源の配信が容易になり、授業外の視聴も一部で自主的に行われていたようである。

8.4 学部 副専攻科目・大学院 副専修科目

上記の日本語科目の他、国際交流センターでは学部生対象副専攻科目と大学院生対象副専修科目がある。こちらは留学生専用科目ではなく、日本人学生と一緒に学ぶ共修科目となる。

(13)異文化交流 A・B・MB(後期) ＜遠隔→対面→遠隔、同時双方向・オンデマンド併用＞

担当:小野真嗣　　時間数:1.5 時間(1 回)／週

レベル:上級　　受講者数:17 名

授業内容:日本人学生と外国人留学生の合同参加科目であり、教員による講義の他、学生間の調査活動を通じ、授業内アクティビティやプレゼンテーションを行って文化理解を相互に深める授業である。前半は公用語に焦点をあて、各国の言語運用事情や背景について国籍別グループによる集団発表とし、後半は文化に関するトピックを学生が個々に選び、国籍混合型グループにより国・地域別の違いに留意した調査活動・発表とした。

2020 年度は外国人留学生の参加が極めて少なく、例年の日本人学生と半数ずつという環境が構築できない反面、遠隔授業の特性を活かし、オーストラリア RMIT やモンゴル IET といった協定校学生との交流機会を複数回授業に導入し、様々な異文化交流機会の確保に努めた。

(14)国際関係論(学部昼間コース、前期・集中講義) ＜遠隔、同時双方向＞

担当:宮本融(非常勤講師)　　時間数:1.5 時間(15 回)・5 日間集中

レベル:上級　　受講者数:93 名

授業内容:国際関係の諸理論と問題領域を学びながら、国際関係論の基本的な分析枠組みと言語の習得を目指し、国際関係分析の理論的枠組みの骨格をつかむことを狙いとした。国際関係論の主要理論である現実主義・自由主義や、それらに批判的な見方を紹介し、諸理論の視点から現代世界の諸問題をどのように理解することができるのか、人類が抱える具体的な諸問題を扱った。

(15)国際関係論特論(大学院、前期・集中講義) ＜遠隔、オンデマンド＞

担当:渡部淳(非常勤講師)　　時間数:1.5 時間(15 回)・5 日間集中

レベル:上級　　受講者数:10 名

授業内容:国際関係分野の中でも特に国際政治経済学に焦点を絞り、資本主義の発達、市場の拡大、技術革新などが世界の政治や社会に及ぼす影響を考える分析枠組みと事例に焦点を合わせた授業とした。加速度的に進展する現代のグローバル化を政治社会の市場化・経済化の側面から説明した。

(16)国際関係論(学部昼間コース・[改組に伴う特設クラス]、後期・通常開講) ＜遠隔、オンデマンド＞

担当:渡部淳(非常勤講師)　　時間数:1.5 時間(2 回)／週(12 月～1 月)

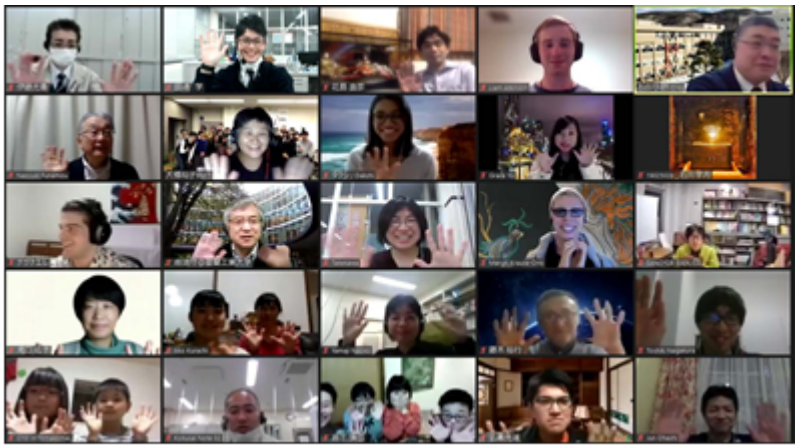
レベル:上級　　受講者数:23 名

授業内容:本授業は、本学の工学部から理工学部への改組に伴い、履修科目の制約が生じてしまった学生に対してのみ、学務課より特別に開講依頼があって後期年度途中より開講した特設クラス科目である。内容は前期集中講義と同様である。

9. 室蘭工業大学国際セミナー

同セミナーは、学生と市民の皆さんとともに、世界のさまざまな国や地域について勉強し合い、国際的な視野を拡げることを目的としている。

第 50 回　室蘭工大国際セミナー
開 催 日:　2021 年 2 月 12 日
テ ー マ:　「言葉の壁が教えてくれたもの
　　ー 室蘭コミュニティとの若い世代に対する‘協育’ー」
講 演 者:　ロイヤルメルボルン工科大学　グローバル・都市社会学科講師
　　大橋　裕子　氏



ZOOM 画面上での参加者との記念撮影の様子
（左から 2 列目、上から 2 番目が大橋先生）

10. 留学生を対象とした行事及び研修等

10.1 国際交流センター主催行事

開催日	行　事　名	行　事　の　内　容	参加者数
2020 年 5 月中旬	留学生オリエンテーション	新たな留学生に対して、留学生関係教職員の紹介を行い、日本での生活上の注意事項を説明する。	中止（※）
2020 年 5 月下旬	新入学生歓迎会	新たな留学生に在籍中の留学生及びチューターを紹介し、懇親会を行う。	中止（※）
2020 年 6 月中旬	登別鬼花火見学会	室蘭周辺の観光名所を案内する目的で、登別温泉の名物行事「登別鬼花火」を見学。	中止（※）
2020 年 8 月上旬	国際交流センター長杯 玉入れ大会	前期の授業終了に合わせ、国際交流センター長杯玉入れ大会を実施する。ゲームの後は、応援していた学生を含む参加者全員でおつかれさま会を行い、交流を深める。	中止（※）
2020 年 9 月上旬	夏の見学旅行	留学生に対し、北海道内の自然や特有の産業施設等を見学させることによって、北海道の文化、歴史、産業等についての知識・理解を深める。	中止（※）
2020 年 9 月 24 日	9 月卒業・修了おめでとう 送別会	9 月修了生（短期留学生含む）の修了を記念して、送別会を実施した。	留学生・教職員 19 名
2020 年 10 月中旬	秋季新入生歓迎ウェルカム ランチパーティー	新入留学生を対象にランチパーティーを行い、寮のリーダーの紹介等を行う。	中止（※）
2020 年 10 月 18 日	秋の見学旅行	4 月以降に入学した留学生を中心に、室蘭市・壮瞥町・洞爺湖町の観光名所を案内し、胆振地域に関する理解を深めさせるとともに、留学生同士の交流を図る目的で実施した。	留学生・家族 60 名
2021 年 1 月上旬	野外セミナー	南国出身が多く、冬期間部屋に閉じこもりがちな留学生に対して、北国の冬期間の楽しみ方を紹介している。	中止（※）
2021 年 1 月 13 日	生活安全講習会	2020 年度入学の留学生を対象に、交通事故、火災、地震及びインターネット犯罪などの事件・事故の防止のため、留学生生活安全講習会をオンラインで実施した。	留学生 63 名
2021 年 2 月 17 日	留学生交流会	卒業・修了予定の留学生に対して学長からお祝いの挨拶があり、スライドショーが上映された。	留学生 11 名

※新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響により、中止となった。

9 月卒業・修了おめでとう送別会

秋の見学旅行

留学生交流会

10.2 学外の諸行事への留学生派遣及び参加の状況

10.2.1 講師派遣

開催日	主催	行事名	留学生 派遣人数
2020 年 4 月 25 日	室蘭身体障碍者福祉協会	英会話講座講師派遣	1
2020 年 11 月 11 日	天神小学校	国際交流教室	2
2020 年 11 月 12 日	蘭北小学校	国際交流教室	1
2020 年 12 月 5 日	登別明日中等教育学校	AKB English Day (オンライン開催)	4
2020 年 12 月 17 日	八丁平小学校	国際交流教室	中止(※)
合 計			8

※新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響により、中止となった。

蘭北小学校での国際交流教室の様子

蘭北小学校生徒からのお礼状

10.2.2 学外支援団体等支援行事

開催日	主催	行事名	行事の内容	留学生参加人数
2020 年 5 月上旬	長沼ロータリークラブ	長沼国際交流フェスティバル	長沼国際交流フェスティバルに本学の留学生が参加。	中止(※)
2020 年 5 月下旬	室蘭北ロータリークラブ	室蘭岳登山	室蘭北ロータリークラブ主催により、室蘭岳(標高 911 メートル)登山が開催され、室蘭北ロータリークラブの皆様と登山をしながら交流を深める。	中止(※)
2020 年 6 月下旬	室蘭市	イルカ・鯨ウォッチング	室蘭市の招待によりイルカ・鯨ウォッチング体験乗船に参加する。	中止(※)
2020 年 7 月下旬	むろらん港まつり実行委員会	市民踊り	むろらん港まつりのイベントの1つである「総参加市民おどり」に留学生が参加する。大学職員とともに「室蘭ばやし」や「北海盆唄」に合わせて街を踊り歩き、日本のお祭りを楽しむ。	中止(※)
2021 年 2 月上旬	室蘭市国際交流推進協議会 (協賛:国際ソロプチミスト)	さっぽろ雪まつり見学会バスツアー	・雪まつり大通会場の見学。 ・北海道大学総合博物館の見学。	中止(※)
2021 年 2 月中旬	日本語サロン(室蘭市国際交流推進協議会) 国際交流市民協力員有志一同	日本の伝統文化を楽しむ会	・卒業して室蘭を離れる留学生とその家族のためのパーティー。 ・日本着物の着付けや茶道、華道の体験。 ・着物を着てファッションショーや記念撮影会。	中止(※)
合　計				0

※新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響により、中止となった。

10.2.3 その他の行事

開催日	主催	行事名	留学生参加人数
随時	室蘭社会福祉協議会	雪かきレンジャー	10
合　計			10

11. 学術交流協定校・機関との交流

11.1 協定校等への訪問

新型コロナウイルスの影響（COVID-19）により、外国及び協定校等からの訪問受入れ実績なし。

11.2 外国、協定校等からの訪問受け入れ

新型コロナウイルスの影響（COVID-19）により、外国及び協定校等からの訪問受入れ実績なし。

11.3 共同セミナー、共同事業等の実績について

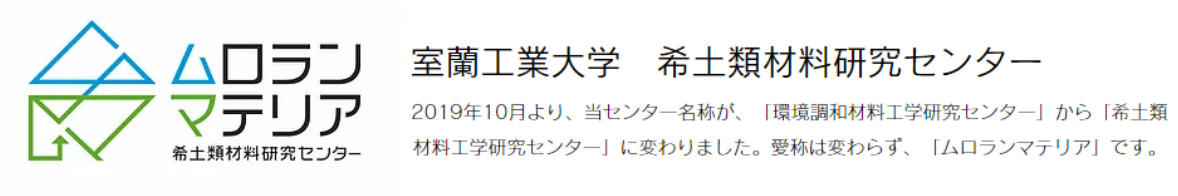
（1）MuroranIT Rare Earth Workshop 2020

日時： 2020 年 10 月 28 日～29 日

主催： 室蘭工業大学 希土類材料研究センター

概要：MuroranIT Rare Earth Workshop は、2016 年に始まった国際ワークショップで、2017 年に 2 回目 2018 年に 3 回目のワークショップが開催され、2020 年に 4 回目を迎えた。新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響により、オンラインでの実施となった 2020 年度のワークショップは、「Innovative Development for Rare Earths Application」というテーマで 2 日間開催され、基調講演 1 件、招待講演 14 件、学生トーク 5 件、ポスター発表 21 件が行われた。

参加機関：エイムズ研究所（アメリカ）、ジェノバ大学（イタリア）、バラチダッサン大学（インド）、チェンマイ大学（タイ）、室蘭工業大学、東京都立大学、広島大学、東北大学、芝浦工業大学、岡山理科大学（日本）



ムロランマテリア HP における MuroranIT Rare Earth Workshop 2020 のお知らせ

(2) 2021 International Video Concert

主催：中国・河南理工大学

概要：本学の協定校河南理工大学の主催で 2021 International Video Concert が開催され、カナダ、韓国、ロシア、日本の大学が参加した。この Video Concert では、「Together fighting against the pandemic」と「Together celebrate the Spring Festival」のテーマの下で、各大学代表者による挨拶とともに、歌、演奏など多様なパフォーマンスが披露された。

参加機関：レイクヘッド大学（カナダ）、韓瑞大学（韓国）、イルクーツク国立研究技術大学（ロシア）、室蘭工業大学（日本）等

2021 International Video Concert 動画ファイルの導入部

12. 学生の海外への派遣

12.1 派遣プログラム

以下の 2020 年度派遣プログラムについて、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響により、すべて中止となった。

・本学学術交流協定校への派遣留学
・アメリカ・ウェスタンワシントン大学（WWU）英語研修
・オーストラリア・ロイヤルメルボルン工科大学（RMIT）語学研修
・ヨーロッパ語学研修
・中国・華中科技大学短期研修
・国際共同研修プログラム

12.2 佐藤矩康博士記念国際活動奨励賞

本奨励金は、年 2 回募集し、8 名程度に各 10 万円を授与する。

賞の由来と趣旨

本奨学賞は、医学博士で博士（工学）である佐藤矩康先生のご寄附によって、2009 年に創設されました。本学在学中の学部及び大学院の学生が海外国際会議での論文発表、海外での研究プロジェクト参画、海外インターンシップなど、国際的な場で活動し、成果を上げることを支援し、奨励することを目的としています。

佐藤矩康先生は昭和 2 年、北海道富良野町に生まれ、北海道大学医学専門部を卒業後、医師、医学博士として医業に従事される傍ら、多年、刀剣考古学の研究に携わり、平成 18 年「X 線 CT 法による上古刀のはばき構造の解析」によって室蘭工業大学から博士（工学）の学位(主査　桃野正教授)を授与されました。また長年、私的な奨学財団により学生生徒の就学を支援しておられます。

本奨学賞が、学生の皆さんの国際意識・国際能力の向上に繋がり、ひいては室蘭工業大学の教育研究の活性化にいささかでも寄与することを希望します。

故　佐藤矩康（さとう　のりやす）博士　略歴

昭和 2 年 4 月　北海道上富良野町生まれ
名寄小学校、名寄中学校を経て、
昭和 25 年 3 月　北海道大学医学専門部卒業
昭和 25 年 4 月　北海道立札幌医科大学内科学教室入局　医師
以後　日高門別町 町立病院内科医長、南幌町 町立病院院長　等を歴任
昭和 34 年 10 月　札幌市白石区にて、眼科医和子夫人と「内科眼科共立診療所」開設
平成 12 年 4 月　信佑会吉田記念病院医師、聖愛会発寒中央病院医師
平成 23 年 9 月　逝去

2020 年度の本奨学賞について、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響により、中止となった。

12.3 留学 WEEK

留学経験者の報告により派遣留学の意義と効果を広く PR する広報活動であるが、2020 年度は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響により、中止となった。

12.4 海外語学研修説明会

各語学研修に参加した学生の体験発表後、研修担当教員から語学研修の概要を説明し、幅広く語学研修のPRをする目的で実施する説明会であるが、2020 年度は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響により、中止となった。

12.5 海外留学・異文化体験報告会

留学や海外渡航した先輩から体験談を聞くことができる報告会を 11 月 27 日及び 12 月 4 日に実施した。本学の派遣プログラムで海外渡航した学生の体験談のほか、ワーキングホリデー、海外インターンシップ及び海外大学の学位取得に関する体験談も聞くことができ、大変有意義な報告会となった。

両日とも約 30 名の本学学生が本報告会に参加した。

海外留学・異文化体験報告会ポスター

12.6 オンライン異文化交流

海外留学に代わる新たな取組みとして、本学学術交流協定校とのオンライン異文化交流を実施した。

【タイ・チェンマイ大学オンライン国際交流研修】

日　　時:　2020 年 8 月 17 日～28 日

内　　容:　オンライン授業形態の英語研修授業、「持続可能な開発目標(SDGs)」に関するグループワーク及びディスカッションなど

方　　法:　Zoom を用いたオンライン授業

参加学生数:　1 名

【オーストラリア・ロイヤルメルボルン工科大学(RMIT) 日本語授業 TA ボランティア】

日　　時:　第 1 回 2020 年 5 月 11 日～13 日
第 2 回 2020 年 8 月 20 日、21 日
第 3 回 2020 年 9 月 30 日～10 月 6 日

内　　容:　RMIT で行われる日本語授業の TA(Teaching Assistant)ボランティア

方　　法:　Blackboard Collaborate を用いたオンライン交流

参加学生数:　延べ 37 名

【モンゴル・工業技術大学(IET) International Club Meeting】

日　　時:　2020 年 5 月 22 日～7 月 31 日

内　　容:　英語や日本語による海外大学の学生とのコミュニケーション及び異文化交流

方　　法:　Zoom を用いたオンライン交流

参加学生数:　10 名

13. 外国人短期研修生・外国人インターンシップ研修生・外国人研究員受入れ

13.1 外国人短期研修生受入れ

外国人短期研修生受入れ制度は、本学の学術交流協定校の正規課程に在籍する外国人学生が本学において研修（講義、演習、実習等）を受けるものである。

RMIT 日本語研修生受入　※2020 年度は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響により、中止となった。

期　間：10 月下旬～11 月中旬

内　容：本研修は、本学学術交流協定校のオーストラリア・ロイヤルメルボルン工科大学（RMIT）で日本語を学ぶ学生の受け入れである。当研修は、夏に実施した本学の RMIT 短期派遣研修と双方向の研修として行われ、学生同士が活発に交流を行う。日本語による授業、北海道の自然や文化施設等の見学、ホームステイ体験及び実施体験等により研修を行う。

13.2 外国人インターンシップ研修生及び短期研修生受入れ

インターンシップ研修生受入制度は、外国の大学の正規課程に在籍する外国人学生が、本学において実施する研究、実験、解析、設計、製作等の研修プログラムに参加するものである。2020 年度は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響により、受入れ実績がなかった。

短期研修生受入制度は、本学と学術交流協定を締結している外国の大学の正規課程に在籍している学生で、本学において3月以内の研修（講義、演習、実習等）に参加するものである。2020 年度は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響により、受入れ実績がなかった。

13.3 外国人研究員受入れ

本学独自の滞在費支援制度である室蘭工業大学外国人客員研究員支援経費は、2012 年度から国際連携による共同研究の展開を目的として創設された。

2020 年度は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響により、受入れ実績がなかった。

14. 国際交流クラブ

国際交流クラブは、本学の公認課外活動団体（学生サークル）で、1994 年に、その当時の留学生（院生）数人が中心となり、自分たちより年若い日本人の学生たちに、親睦と交流を呼びかける形で発足した。

その後、意識の高い日本人学生たちが積極的に呼応して「国際交流クラブ」が創設され、以来 20 年以上が経過して留学生の数も出身国も増えたことにより、一年を通じて活発に国際交流が行われるサークルとなった。

大学祭への参加や、お花見やジンギスカンなど、日本・北海道らしい活動をともにするほか、日常生活の中で留学生と日本人学生の交友・交流が見られるようになったのは、国際交流クラブの大きな功績といえる。

国際交流センターにおいても、国際交流センター専任教員が顧問教員を務めるほか、センターとして国際交流クラブの活動にさまざまの形で支援を行なっている。また国際交流センターが行う行事に国際交流クラブの部員が参加又は協力し、海外研修などにも応募者を出すなど、国際交流センターと密に関係を保ちつつ、学生側の国際交流活動の窓口として、また主体として大いに活躍している。

国際交流クラブの活動の様子（2019 年度）

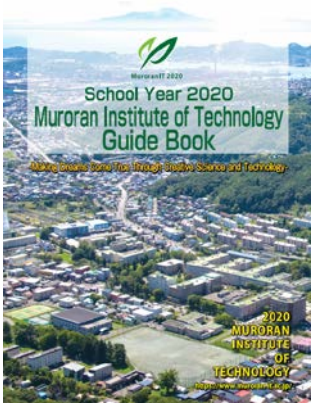
15. 広報活動

15.1 国際交流センターホームページ

日本語版トップページ

英語版トップページ

15.2 英文概要・国際交流センターNews



英文概要

国際交流センターNews 12 号

15.3 オリジナルグッズ

風呂敷

スマホスタンド

トートバッグ

ポケットティッシュ

15.4 広報活動グッズ

旗

イスカバー

16. 教員の研究活動

船水尚行

○論文発表（研究報告）

(1) W Oishi, I Kato, N Hijikata, K Ushijima, R Ito, N Funamizu, O Nishimura (2020) Inactivation kinetics modeling of Escherichia coli in concentrated urine for implementing predictive environmental microbiology in sanitation safety planning, Journal of environmental management 268, 110672

(2) M GUIZANI, T ENDO, R ITO, N FUNAMIZU (2020) Polyethylene Glycol-Coated Magnetic Nanoparticles-Based Draw Solution for Forward Osmosis, Sanitation Value Chain, 4(1): 27-37

○著書

(1) 船水尚行（共著）： クロノデザインー空間価値から時間価値へー，彰国社，224 頁，2020 年 11 月

山路奈保子

○論文

(1) 山路奈保子，因京子，アプドゥハン恭子：研究コミュニティを活用した主体的学習支援のための入門期日本語教育－周辺環境の学習リソース化をめざしてー，日本語教育 175 号，pp. 115-129，2020

(2) 高木佳奈，山路奈保子：口頭運用能力の差をもたらす環境的要因の分析－日本語コース修了後の追跡調査からー，松村瑞子ほか編著，語用論研究の可能性，朝日出版社，pp. 425-438，2020

○外部資金獲得

(1) 科学研究費補助金　基盤研究(C)「研究室コミュニケーションのための初級後半レベル日本語教育用教材の開発」　（研究代表者）

(2) 科学研究費補助金　基盤研究(C)「パブリックスピーキングにおける「説得」のマルチモーダル分析」研究代表者：深澤のぞみ　（研究分担者）

(3) 科学研究費補助金　基盤研究（B)「日本語読解・ライティングの方法に影響する母国語・母文化の教育的背景要因に関する研究」研究代表者：村岡貴子　（研究分担者）

小野真嗣

○論文（特集論文）

(1) 小野真嗣:モンゴル協定校との学術交流に関する活動報告, 室蘭工業大学紀要，70，pp. 19-31，室蘭工業大学.

○講演（招待講演）

(1) 小野真嗣：ウィズコロナの時代ではどんな国際交流活動ができるのか　－地域内・学校内に

おけるグローバル人材の育成と共有ー，2019 年度グローバル人材育成教育学会(JAGCE)第 6 回北海道支部研究大会 第 3 部パネルディスカッション　（パネリスト兼コーディネータ），2021 年 2 月 27 日，Zoom Online.

○研究発表（口頭発表）

(1) 小野真嗣：コロナ禍の国際交流　ー渡航から遠隔は新しい流れになるのかー，北海道言語研究会第 20 回例会，2020 年 9 月，室蘭工業大学.

(2) 井上愛，小野真嗣：自宅「留学」の体験報告　ーCOIL 型教育の試行的取組ー，コンピュータ利用教育学会(CIEC)北海道支部 PC カンファレンス北海道 2020，2020 年 11 月，Zoom Online.

(3) 小野真嗣：オンラインで実施したワークショップ型教員研修の実践報告　ー第 17 回室蘭工業大学 FD 教育ワークショップ実践報告ー，コンピュータ利用教育学会(CIEC)北海道支部 PC カンファレンス北海道 2020，2020 年 11 月，Zoom Online.

(4) 小野真嗣：海外渡航に寄らない国際交流活動の実践報告　ー実質化した活動があってのオンライン交流ー，グローバル人材育成教育学会第 6 回北海道支部大会，2021 年 2 月，Zoom Online.

○外部資金獲得

(1) 科学研究費補助金　基盤研究（C）　「留学生リソースの共有活用による多地点異文化交流を通じた地方大学外国語学習再起」（研究代表者）.

(2) 北海道大学情報基盤センター萌芽型共同研究（B）　「プログラミング的思考に関する実践指導の将来像とネットベース教育の展望」（研究代表者）.

白 尚燁

○論文

(1) 白 尚燁，地域類型論的観点から見たサハリン地域に分布するウイルタ語，アイヌ語，ニヴフ語の定動詞における 3 人称標示と複数接辞の文法的類似性について，北方言語研究 11 号，pp.69-79，2021 年 3 月.

(2) BAEK Sangyub，Grammatical Peculiarities of Uilta in the third group of Tungusic，津曲敏郎先生古希記念集，pp.171-187，2021 年 3 月.

(3) 白 尚燁，室蘭工業大学における国際学術交流協定の現状と今後の国際学術交流協定の在り方に関する提言，室蘭工業大学紀要 70，pp.3-9，2021 年 3 月（特集論文）.

○研究発表（口頭発表）

(1) 白 尚燁，第Ⅲ群ツングース諸語におけるウイルタ語の文法的特異性について，北海道言語研究会第 20 回例会，2020 年 9 月 25 日，室蘭工業大学.

(2) BAEK Sangyub，Grammatical Peculiarities of Uilta in the third group of Tungusic，the Second Conference on Uralic，Altaic and Paleo-Asiatic languages，the Institute for Linguistic Studies of the Russian Academy of Sciences，2020 年 10 月 8 日（オンライン）.

(3) 백상엽[白 尚燁]，지역유형론적 관점에서 본 사할린 윌타어，니브후어，아이누어의

정동사 3 인칭표시［地域類型論的観点から見たサハリンのウイルタ語、二ヴフ語、アイヌ語の定動詞 3 人称標示］，韓国アルタイ学会全国学術大会―アルタイ言語と文化の類別と分別―，2020 年 12 月 5 日（オンライン）．

(4) 白 尚燁，ツングース諸語における同主語副動詞を用いた異主語文，東京外国語大学アジアアフリカ研究所共同利用・共同研究 2020 年度第 3 回「「アルタイ型」言語に関する類型的研究(2)」，2021 年 3 月 2 日（オンライン）．

○外部資金獲得

(1) 科学研究費補助金　研究活動スタート支援「ツングース語族における地域的分布と類型論的相違の相関性について」（研究代表者）．

17. 国際交流センターに関する新聞記事

タイトル	日付	新聞紙名
日本文化パンフで紹介　室蘭天神小児童、工大留学生と交流	2020 年 11 月 16 日	室蘭民報
オーストラリアの学生と室蘭市民　交流で感じたこと解説	2021 年 2 月 2 日	室蘭民報
12 日　ZOOM を使った国際セミナー	2021 年 2 月 4 日	北海道新聞
異文化学び成長　室工大　オンライン国際セミナー	2021 年 2 月 13 日	室蘭民報
室工大留学生 10 年で2倍に	2021 年 3 月 14 日	室蘭民報

18. おわりに

国際交流センター准教授　小野　真嗣

本執筆時点を考えますと、2020 年度の活動報告書は例年よりも早い時期に完成致しました。本書をご覧になられた皆様には大方予想通りの内容となってしまったかもしれませんが、国際交流センターも例にもれずコロナ禍の過酷な1年となり、異例尽くしのセンター業務でした。道内他大学はコロナ対応による遠隔授業整備のために 5 月ゴールデンウィーク明けに授業開始となるところが多い中、本学は幾分早めに開始でき、4 月始業が 2 週間だけ遅らせての開始となりました。新たに導入されたオンラインツールである Zoom によりライブ型（同時双方向通信型）の遠隔授業を基本形態として始業しましたが、教職員が Zoom 操作で当初右往左往するという事態は言うまでもありません。ただ、授業は 2 週間遅れで始業したものの、外国人留学生の新規入国や再入国が 4 月時点で出来た訳ではなく、彼らの室蘭到着は遅れに遅れ、12 月頃迄には概ね揃ったものの、数名は母国の出国不許可等で室蘭へ到着できず、留学生が年度内にキャンパスに揃うことは叶いませんでした。それでも Zoom のおかげもあり、時差があっても国外からの受講が可能な授業環境が整備され、多少の休学者はいても、受講上の問題は平時と比べても最小限にとどめられたのではないかと思います。5 月 1 日付け留学生数を前年度と比較すると、プラス 5 名の 215 名となり、コロナ禍でも受入増員傾向が継続されている点は、特筆に値するかと思います。

国際交流センターの体制としては、近年は学務課長による国際交流室長の兼任で事務室が運営されておりましたが、2020 年度は本来の独立した形で室長をお迎えすることとなりました。的野学務課長兼国際交流室長および池田留学生係員の後任として、4 月 1 日付け人事で伊藤光春国際交流室長、髙橋秀徳留学生係員が着任され、同時に国際交流室は学務課を離れ入試戦略課へ組み入れられた組織となりました。この体制にてコロナ禍の始動となりましたが、年度当初は留学生事務もコロナ一色となりました。例年に無い数々の通知文書が学生向けにメール、ウェブサイト、Campus Square、Moodle 等で発信されましたが、情報を一元化するコロナポータルサイトが後に用意され情報伝達が行われました。ただ言語対応の件が課題として残り、主に英語をコミュニケーション言語として用いる留学生向け情報として日本語版だけではなく英語版も整備が必要となりました。「コロナ関連ポータルサイト作成管理 WG」が佐藤孝紀副学長を長として立ち上がり、その下に筆者の他、協力員として白特任助教および武川留学生係長の体制で緊急対応にあたりました。執筆時点で集計しますと、年間 43 本の英訳対応という実績だけを見ればそれ

ほどではないように見えますが、その内 17 本が 4 月に集中し、全体の 83%にあたる 36 本が 9 月末までの前期の発信だったことを考えると、4 月はほぼ毎日、前期 15 週の中では週に 2～3 本の英訳対応だったことになります。前期は一部の語学授業（英語・ドイツ語）を除いて、対面授業を一切行わない完全オンライン授業でしたので、その分、学生への連絡が窓口・口頭周知ではなく全て電子的に行われなければならなかったことも影響したと思われます。

上記のように国際交流センター業務の内容が異例尽くしとなりましたが、一方で一つの転換期を迎えることにもなりました。業務の電子化・オンライン化です。これまでは日本人学生の海外留学派遣にはじまり、留学生チューター業務報告の他、外国人留学生の奨学金申請、RA（Residence Assistant：寮生指導および留学生宿舎管理補助業務担当学生）の業務報告は窓口において紙ベースで行われておりましたが、コロナ禍となって対面による各種事務手続等が出来なくなり、様々な制限が伴うようになりましたので、奇しくも思わぬ形で見直しが図られる機会にもなりました。それまでは授業用 Moodle に1枠設けて頂いて、試験的に案内周知や情報収集が行われておりましたが、国際交流室独自に各種事務手続用サーバが年度末に整備されました。加えて、RPA(Robotic Process Automation：コンピュータプログラムによる業務効率化[コンピューター上で行われる業務や作業を人に代わって自動化する技術])の説明会開催や将来的な導入が模索されるなど、業務改革が表立って検討された年ともなり、大きな変化を感じています。

さて、最後になりますが、毎年度末に行われていた国際交流センターの一大行事である蓬峅殿での留学生交流会もコロナ対策のため形態を変えざるを得なくなり、学内で規模を大幅に縮小して行うこととなりました。国際交流センターが入る N 棟 4 階の N401 大講義室が会場となり、参加者や式次第を絞って行われました。卒業・修了のお祝いもあり、通常であれば笑顔溢れる中開催されますが、皆マスクを着用して表情が隠れてしまう中でも、交流会最後の記念写真が唯一公式に収められた 2020 年度行事における留学生の満面の笑みだったかもしれません。コロナ禍ではあったものの、卒業・修了する留学生から「お世話になりました」とか「Thank you」と、コロナ感染対策に配慮して言葉少なげながらに伝えられたのは、嬉しい反面、例年通りの開催が叶わなかったことによる遣る瀬無さも感じた瞬間でした。

2021 年度も引き続きコロナ禍でのセンター業務運営となります。気持ちを落ち込ませることなく、マスクをしながらでも常に明るい笑顔を届けられるような元気に満ちたセンターを心掛け、またコロナ前の活気が戻ってくればと願っています。今後とも、皆様からのご支援、ご協力のほど、宜しくお願い申し上げます。

室蘭工業大学
MURORAN INSTITUTE OF TECHNOLOGY

室蘭工業大学　国際交流センター

〒050－8585　室蘭市水元町27番1号

https://www.muroran-it.ac.jp/oia/

E-mail: kokusai@mmm.muroran-it.ac.jp

TEL：（0143）46－5886

FAX：（0143）46－5889